

# 新冠疫情時期的"日本文化"課程實踐

跡部千繪美

逢甲大學外語教學中心助理教授

## 摘要

本稿針對一門關於日本文化課程的實踐過程及其結果從事分析報告。該課程是在新冠疫情持續肆虐的 110 學年第二學期開放給全校同學選修的新開設應用日語課程之一。相關課程的先行研究所採用的同儕學習和小組合作等授課方式不適合在新冠疫情持續肆虐狀況下實施。因此本課程採用了教師授課講解和修課同學個人單獨作業的方式。授課時更注重下列三點：(1) 主動・積極，(2) 互動，(3) 減壓

修課學習者的日語程度從零基礎到 N1 等不一。每一週的課程分為前半與後半；前半部分，使用筆者自製的 PPT 結合動畫介紹各都道府縣的觀光景點和名產品；後半部分，用 PPT 介紹現代文化、歷史和經典名著作品。PPT 用簡單的日語製作而成，在上課前一週透過學校的網路學習系統公告，督促修課同學們預習。授課的講解方面，以多數修課同學的母語--中文進行。修課同學在每週課後當天填寫並繳交以 Microsoft Forms 製作的反思回饋表單；筆者於隔天做出回饋和評分後發還。

本稿分析報告的內容為：課程開始時的問卷調查、修課同學的反思回饋表單、課程結束後的匿名問卷調查結果，以及學校實施的總結性評量結果。分析結果顯示修課同學多給予正面積極的評價，亦即在新冠疫情持續肆虐的狀況下，雖然有許多的限制，但本課程的實踐結果是非常令人滿意的。

關鍵詞：新冠疫情、主動、互動、減壓、反思回饋表單

受理日期：2023 年 3 月 09 日

通過日期：2023 年 5 月 26 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202306\_(40).0001

# **An Attempt to Teach "Japanese Culture" in the COVID-19 Pandemic**

Atobe Chiemi

Assistant Professor, Foreign Language Center, Feng Chia University

## **Abstract**

This paper reports on a new elective course on Japanese culture offered in the second semester of the 110th academic year during the COVID-19 pandemic. It is an applied Japanese language course available for the entire university. In this class, we employed lectures and individual work. Teacher kept the following three points in mind throughout the course: (1) to keep student active, (2) to strengthen interactivity, and (3) to give less pressure to students.

The learners' levels ranged from introductory to N1 level. In the first half of each class, teacher introduced famous places and products of each prefecture with videos and self-made PPT, and in the second half, modern culture, history, and famous stories were introduced. The PPT was written in simple Japanese and distributed one week ahead. The class was conducted in Chinese. After each class, students filled out a reflection sheet and submitted it on the same day. Teacher gave comments and scores on the sheet and returned it the next day.

This paper presents the results of questionnaires, learner's reflection sheets, and class evaluations conducted by the university. The students' responses were favorable, and it can be said that the course was highly satisfactory despite the restrictive conditions caused by the COVID-19.

**Keywords:** COVID-19, active, interactivity, less pressure, sheet

# コロナ禍における「日本文化」授業の試み

跡部千絵美

逢甲大学外語教学中心助理教授

## 要旨

本稿はコロナ禍の110年度2学期に新規で開講された全学向け応用日本語コースの選択授業「日本文化」について報告するものである。先行研究で採用されていたピア・ラーニング、グループワークといった方法はコロナ禍では実施が困難であり、本授業でも教師による講義と個人作業を採用した。そして学習者ができるだけ多くの学びを得られるよう、次の3点、①主体的・能動的、②対話的、③プレッシャーの軽減、を心掛けた。

学習者のレベルは入門レベルからN1レベルまでと幅広い。毎回の授業では前半に都道府県の名所や名産品を動画を交えて自作のPPTで紹介し、後半には現代文化、歴史、有名な物語をPPTで紹介した。PPTは簡単な日本語で作成し、一週間前に配布して予習を推奨した。そして授業は受講生の母語である中国語で行った。学習者は授業後に毎回Microsoft Formsの振り返りシートに記入して当日提出し、教師はそれにコメントと点数をつけて翌日返却した。

本稿ではコース開始時のアンケート、学習者の振り返りシート、コース終了時の無記名アンケート、大学実施の授業評価の結果を示す。学生の反応は良好であり、コロナ禍で制限の多い状況であったが満足度の高い授業を実施できたと言える。

キーワード：コロナ、主体的、対話的、プレッシャー軽減、シート

# コロナ禍における「日本文化」授業の試み

跡部千絵美

逢甲大学外語教学中心助理教授

## 1. はじめに

2019 年末から新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、大学の授業にも様々な変化が求められた。感染者数が増加している時期は対面授業からオンライン授業へ切り替えなければならず、大学によっては両者を併用したハイブリッド授業の実施が求められた。対面授業においても全員のマスク着用に加えて受講生の席順を指定席とすること、座席を離して受講生同士がなるべく近づかないこと、受講生が教室内を歩き回るような活動は避けること等が指示された。これにより従来行ってきたようなペアワークやグループワークを行うことが困難になった。

こうした状況の 110 学年度下学期、筆者の勤務校では全学向けの「日本文化」授業を新たに開講することとなり、筆者が担当教師となった。全学向けであるため受講生の学部・学科は多岐にわたっている。そのため感染予防の観点から受講生同士の接触はとりわけ控える必要があると考えた。加えて一学期間のうちに対面、オンライン、ハイブリッドのいずれの形態にいつ変化してもおかしくない状況である。ペアやグループでの活動を避けた授業形態にする必要があった。

教師の講義中心の授業であっても、ただ講義を聞くだけで授業後すぐに内容を忘れてしまうことなく、受講生が多くの学びを得られる授業にしたいと考え、コース・デザインと実践を行った。コース最終日に無記名のアンケート調査を行い学生の反応を調査した。本稿はこの実践と学生の反応を報告するものである。本稿の実践がコロナ禍のような状況における授業の参考となれば幸いである。

## 2. 先行研究

コロナ禍以前の日本文化関連の授業の実践報告について本稿と関わりの深い実践を、日本、台湾の順に紹介する。

鈴木・ヨフコバ(2014)は筑波大学留学生センターにおける日本文化クラスの実践を報告している。受講生 16 名は全員非漢字圏出身で国籍は 14 か国、レベルは初級前半から後半にわたる。トピックの約半数は「日本の昔話」で、ここでは子供向けの DVD や絵本を使用した。また受講生のレベル差を考慮し、ピア・ラーニング（池田・舘岡 2007）を導入してグループ活動を授業の中心とし、媒介語として英語を使用した。受講生にも日本語以外の使用を許可した。コース後のアンケートでは、昔話を日本語で見たことへの満足度が高く、レベル差のあるクラスでの学習を有意義に感じていた。

高岸(2016)は同志社大学日本語・日本文化センターにおける初級・初中級レベルの受講生を対象とした「日本の文化 A」の 7 年間の授業実践を紹介している。内容は現代文化と古典文化で 1 回の活動は大きく 3 つに分かれ、(1)講義を聞く、(2)グループで話し合い、代表が結果を発表する、(3)短いプレゼンテーションを希望者が行う、となっている。レジュメ及びパワーポイントには日本語と英語訳を載せ、教師の講義は日本語で行った。また授業ボランティアの学生が通訳等のサポートをした。受講生の期末レポートを分析し、日本文化を学ぶ必要性を実感した、自文化を内省した、異文化相互理解が図れた等の肯定的な反応が見られた。

台湾における日本文化関連授業の実践には、佐藤(2011)、沈(2011)、羅(2011)などがある。佐藤(2011)は台湾の大学における「日本事情」について、日本における実践を模倣するのがよいわけではないこと、また受講生の日本語レベルや大規模クラス、成績評価の必要といった制約を受ける点を指摘している。授業では毎回 1 つのテーマについて担当グループが PPT で発表し、聞き手の学生はそれをまとめて授業後に提出した。また 2 時間目にテーマについてグループ討論し、結果をまとめたものも提出する。学習のコアは幅広い分野に渡る基

本的な知識と語彙の習得で、毎回単語テストを実施した。また教師作成のプリントを配布し、試験はプリントから出題した。学期末のアンケートでは受講生からの満足の声がよせられたとのことである。

沈(2011)は日文系 2 年生の選択科目としての「日本史」授業について学習意欲を高めるための教材と指導について報告している。特に受講生の興味・関心を高めることを第一の目標とした。毎回の授業の流れは(1)教師自作のプリントに沿って講義、(2)PPT、画像、動画による補足、(3)受講生の感想文執筆である。プリントには教師からの質問、及び穴埋めさせる空欄を設けた。また授業中はノートを取るように指示した。時代区分に沿って講義をし、原始時代から江戸幕府終焉までを扱った。期末に行われる学習意見調査では肯定的な意見が多く、受講生の興味や関心を引き出した。

羅(2011)は非日本語専攻の受講生を対象とした「日本人の文化と生活」という授業の実践を紹介している。非日本語専攻ということで、日本語でなく異文化間能力を高めることを教育目標とした。授業は中国語で行った。学習シートを用いた講義だけでなく、寿司作り、日本人の講演、クイズ、ロールプレイ等の活動も行った。期末にはレポート発表、グループでのパネルディスカッションを行った。

以上の先行研究は非常に示唆に富んでおり、本授業のコース・デザインにも参考にさせていただいた。一方でコロナ禍の状況ではグループワークや体験型学習は採用が難しく新しい工夫が求められる。

岡田(2021)は全面オンライン授業を行った科目の受講生への意識調査を行い、学生の回答からオンライン授業と対面授業のメリットとデメリットを分析した。その結果オンラインのデメリットとして多くの学生があげていたのは、授業に集中しにくい、オンライン環境への不安、人との交流が少ない、授業への意欲低下、課題が多いという点であった。これに対して岡田(2021)は学生が主体的に回答する個人ワークやグループワーク等の機会を数多く設ける、教員と学生のつながりを増やす等の方策を紹介している。また課題が多いという点についてはコロナ禍以前の授業における授業外学習が不足

していたのであり、コロナ禍において授業の課題が増えたのは本来の大学教育のあるべき姿であるとしている。

オンライン授業やハイブリッド授業であっても、学習者が主体的・能動的に学べるように工夫すべきであるという点は先行研究で一致している。筆者もこの考えに基づきコースデザインを行った。

### 3. コースデザイン

筆者がコロナ禍以前に他大学の応用外国語学科で行っていた日本文化関連の授業では、学生を小グループに分け、テーマについて自分たちで調べて PPT にまとめ、発表するという方法を採用していた。しかしコロナ禍のため、突然オンライン授業に切り替わる、あるいは対面とオンラインを併用したハイブリッド授業に切り替わる可能性があり、こうした方法は実施が困難である。また対面授業の受講生同士も、感染予防の観点から小グループでの話し合いは避けるべきだと判断した。よって本授業では教師の講義形式を採用することとした。

一方で学生同士が対話する活動と比べると、教師による講義は主体的な学びが起こりにくいのではないかという不安もあった。そこで講義形式を採りながら①主体的・能動的、②対話的、さらに③プレッシャーの軽減をすることを心掛けてコースデザインを行った。

以下では本授業の受講生概要、学習目標、各回の内容、授業形態、授業の工夫について具体的に説明していく。

#### 3.1 受講生概要

本授業「日本文化」は全学向け応用日本語コース（応用日語學程）の選択科目の一つであり、非日本語専攻の学生を対象としている。応用日本語コースは「日文（一）」「日文（二）」が必修で、それを学んだ後「日文（三）」「日文（四）」「日語会話」「漫画日語」「商務日語」等が選択科目となっている。

本科目に関わらず、選択科目の受講生全般の日本語レベルは初級

教科書 1 冊が終わった程度から、上は N2 程度までと幅広い。多くの学生は大学入学後に日本語学習を始め、週に 2~6 時間程度日本語の授業に出席しているのみで、日本語学習時間も少なく日本語レベルも高くない。一方で高校時代に第二外国語として日本語を学んだ学生や、大学入学前から塾で個人的に学習している学生もいる。

### 3.2 学習目標

受講生のレベル差の大きさを考慮し、本授業は日本語よりも日本文化の理解に重きを置くこととし、学習目標は次の 2 点とした。

(1) 日本人の生活スタイル、日本地理などを含めた幅広い意味での現代日本文化を理解する。

(2) 日本の歴史、伝統文化に関する知識を得る。

まず(1)について、応用日本語コースには「漫画日語」という授業があるため、アニメ、漫画、音楽等の現代ポップカルチャーに関してはそちらで扱う。本授業ではポップカルチャーを除いた日本文化、具体的には日本の年中行事や日本各地の観光地や特産、お祭り等について紹介する。

(2) の日本の歴史・伝統文化については沈(2011)も指摘するように、日本の歴史を扱った漫画やアニメは多い。そこで本授業では原始から現代までの歴史の流れを簡単に紹介し、漫画やアニメの題材になっているような歴史上の人物や物語を紹介することとした。

本授業で扱う内容が日本文化への興味の入り口となり、そこから教室外で学びを深め、日本語・日本文化学習への動機にもなってほしいという狙いをもって以上の学習目標を設定した。

### 3.3 各回の授業内容

1 回の授業は 50 分×2 コマの 100 分で、前半は毎回 3 つの都道府県について、名所、名産品、グルメ、歴史、お祭り等を紹介し、後半は現代文化、歴史・物語を紹介した。なお教師が準備したもの全ては扱いきれず、14 週以降は学生にアンケートを取り、人気の高い



順に紹介していった。アンケートで下位になり授業で紹介しきれなかった「落語」「漫才・コント」については受講生の希望によりコース終了後に PPT を配布した。

表 1. 各回の授業内容

週	前半	後半	週	前半	後半	
1	ガイダンス		10	都道府県	『源氏物語』の登場人物	
2	都道府県	方言	11		『枕草子』『今昔物語集』 <sup>1</sup>	
3		年中行事	12		戦国武将	
4		13	歴史概論 2			
5		和食・洋食・	14		怪談	
6		中華	15		妖怪	
7		結婚式	16		日本神話	
8		17	昔話			
9		歴史概論 1 <sup>2</sup>			18	休講

### 3.4 授業形態

授業は教師自作の PPT と YouTube 上の動画を用いた講義形式で行うこととした。授業で使う PPT は簡単な日本語で作成し、1 週間前に大学の「網路教室」のコースページを通じて受講生に公開して予習を推奨した。

授業中は基本的に教師の講義であるが、前半の都道府県の時間には指名した学生と教師で簡単なロールプレイを行った。ロールプレイの内容は、教師がその都道府県出身の日本人となり、学生はその日本人と初対面の立場で出身地を踏まえた会話をするというものである。また後半の文化や歴史を紹介する時間には、学生を指名し内容についての意見や感想を述べてもらった。

<sup>1</sup> 文学作品は簡単な現代語に訳したものを読み、感想を話し合った。

<sup>2</sup> 歴史概論 1 は先史時代から平安中期まで、歴史概論 2 は平安末期から現代(令和)までの流れを簡単に扱った。

そして毎回授業終了後の課題として Microsoft Forms を使用した「振り返りシート」への記入を求め、これを中間・期末の成績とした。提出期限は当日中としたが、その後も提出は受け付けた。

振り返りシートの項目は毎回同じで、次の通りである。

表 2. 振り返りシートの質問項目

振り返りシート

1. 今日の自分の調子（体調、気分、参加度）はどうでしたか。
2. 【前半・都道府県】初めて知ったことは何ですか。  
（日本語以外、内容面）
3. 【前半・都道府県】好きだ／苦手だと思ったものは何ですか。
4. 【前半・都道府県】疑問に思ったこと、深く考えたことは何ですか。
5. 【後半・歴史文化】初めて知ったことは何ですか。  
（日本語以外、内容面）
6. 【後半・歴史文化】好きだ／苦手だと思ったものは何ですか。
7. 【後半・歴史文化】疑問に思ったこと、深く考えたことは何ですか。
8. 授業に関連して、自分で調べたことがあったら書いてください。（日本語の単語・文法以外）
9. 授業についての提案・意見、先生への質問、授業の感想など自由に書いてください。
10. 今日の授業について、自分の努力を評価してください。

2～9 までについて記述の豊富さと内容の深みにより毎回 10 点満点で評価し、通常翌日に点数とコメントをつけて返信した。1 と 10 の自己評価は成績とは関わらない。中間／期末までに 8 回の授業があり、シート点は最高 80 点となる。またシートに加えて任意で授業内容と関わる PPT を作成し、日本語でプレゼンしたものを撮影して動画ファイルを提出すれば 20 点満点で加点した。提出した学生は中

間が 18 名、期末が 12 名だった。

最後に特筆すべき点として、本学はコース期間中第 11 週より最終第 18 週までハイブリッド授業となった。本稿におけるハイブリッド授業とは、教室で対面授業を受ける受講生と自宅等でオンラインで授業に参加する受講生が授業時間に同時に存在する授業形態である。本学はこの時期各学生が自分で対面かオンラインかを選択していた。コロナの感染拡大により教室で授業を受ける受講生は第 11 週以降徐々に減少し、毎回人数は異なるが概ね 5～10 名となった。オンラインでは Teams を使用し、教師の講義及びパソコンの音声と、教室のパソコン画面をインターネットで流した。幸い大学のパソコン及びインターネットに関して大きなトラブルはなかった。しかし教室での学生の発言はマイクで拾えないためオンラインの学生には聞こえない、オンラインの学生はカメラをオフにしているため彼らの学習状況がわからないといった問題はあった<sup>3</sup>。

### 3.5 本授業の工夫

日本文化の科目に関しては受講生よりも教師の知識が豊富であることとコロナ禍の要請に配慮し、授業は教師による講義の形式を採ることとした。この状況下で受講生にできるだけ多くの学びを得てほしいと考え、筆者が心掛けたのは 3 点、①主体的・能動的、②対話的、③プレッシャーの軽減である。

①主体的・能動的であることについては、振り返りシートで毎回の授業内容と自分自身の経験、興味を照らして振り返るよう促し、授業内容と関連することを自分で調べることを求めた。振り返りシートではあえて授業内容確認の質問などはせず、各自で興味のあることについて書いてもらった。

また中間・期末に任意で提出するプレゼン動画は授業内容と関連

---

<sup>3</sup> Teams に接続しているマイクは教師が手に持って使用するもののみだった。これを教室の受講生に渡して話してもらえばオンラインで音声を流せるのだが、コロナ禍のためマイクの共用は行わなかった。

していれば内容は自由であるため、提出した受講生は自分の興味があることについて調べて PPT を制作し、プレゼンを行っていた。

②対話的であることについては、具体的に2つある。1つは授業中にたびたび学生の意見や考えを話してもらった点である。なお授業中の発言回数は平常点に反映させている。2つ目は振り返りシートの記述に合わせてコメントを記入し返信した点である。学生からの疑問に答える、勘違いしている点を訂正する、学生の考えに教師の意見を述べる等を行った。これにより学習者一人一人は教師に聞きたいこと、伝えたい考えがあればシートに記入し、教師からのコメントを受け取ることができた。このやり方には、普段は教師に話し掛けづらいと感じる学生も教師と一対一のコミュニケーションを行うことができ、さらにそれぞれの母語を使って伝えることができるという利点がある<sup>4</sup>。具体例は次節で紹介する。

本授業の受講生は人数が多く、お互いに知り合いではなく、日本語レベルにも幅があるため、③プレッシャーの軽減は特に配慮が必要だと考えた。まず日本語レベルが低い受講生に配慮し、講義の使用言語は主に中国語とした。またクラス内で発言したくないという学生に配慮し、各学生にどのくらい発言意欲があるかを初回に調査し<sup>5</sup>、「積極的に話したい」と答えた受講生には毎回発言させ、「話したくない」という受講生は授業中に指名しないようにした。多様な学習者がいる状況で、中には自閉症などの理由でクラス内で発言するのが困難な学習者もいるため、このような措置を採った。最後に上でも述べたが中間・期末にテストを行わず、毎回の振り返りシートと任意提出のプレゼン動画によって成績をつけた。このようにして“先生の日本語が聞き取れない”“授業中にみんなの前で話さなければならない”“授業内容が覚えきれない”“テストの点数が悪くてパスできない”といったプレッシャーから解放された状況で、楽し

---

<sup>4</sup> 教師・学習者共に聞いてわからなくても文字であれば意味が分かる場合も多く、書いてあることがどうしてもわからなければ翻訳サイトを利用することもできる。

<sup>5</sup> 発言回数が平常点の一部であることは事前に説明している。

く日本文化を学んでほしいと考えた。

以下、4節ではコース開始時アンケートの結果を、5節では振り返りシートの実例を、6節では受講生による本授業の評価を紹介し、7節で実践について振り返る。

#### 4. コース開始時アンケート

まずコース開始時の授業中に実施したアンケート結果を紹介する。受講生の背景、受講動機についてのアンケートである。アンケートの質問項目と選択肢は中国語を使用し、Google Formで行った。授業初日に出席した55名の受講生が回答した。

表3は受講生が自己申告した日本語レベルである。その他の7名には自由記述の欄に「我其實只上過日文(一)而已（実は日文（一）しか履修したことはありません）<sup>6</sup>」と書く学生がいる一方で、日文（三）も履修済みであるが日本語の検定試験を受けたことがなくレベルが把握できないために「その他」を選んだ受講生もいた。

表3. 受講生の日本語レベル

N1 レベル	1	『みんなの日本語初級 2』修了	12
N2 レベル	4	『みんなの日本語初級 2』学習中	10
N3 レベル	5	その他	7
N4 レベル	9		
N5 レベル	7	合計	55

『みんなの日本語初級 2』を修了していない受講生がその他にも合わせて10名以上おり、一方でN1～N3レベルの受講生も10名いる。本授業の受講生の日本語レベルの幅広さが改めてわかった。筆者が担当する応用日本語コースの選択科目ではこのように受講生の日本語レベルの差が大きく、全て日本語で授業をすることは避けている

<sup>6</sup> 学習者の中国語のコメントは誤字脱字を含めて原文のままである。また後の（ ）内は筆者による日本語訳である。

が、日本語レベルや学習意欲の高い受講生から「全て日本語で授業をしてほしい」と要望されることも多く、使用言語一つとっても全ての受講生を満足させる授業は非常に困難だと言える。

次に受講生に聞いた「日本文化」授業で一番に（同様に、二番目に、三番目に）重視することは何かという質問への回答である。

表 4. 「日本文化」授業で重視すること

	一番目	二番目	三番目	合計
日本文化の知識を深める	25	16	5	46
日本語の知識を深める	9	6	14	29
リラックスした楽しい授業	13	8	7	28
日本語の会話能力を向上	3	12	10	25
日本語の聴解能力を向上	3	10	8	21
日本人教師との交流	2	2	6	10
他の受講生との交流	0	0	3	3
単位取得	0	1	2	3
合計	55	55	55	165

表 4 を見ると、受講生が最も重視しているのは日本文化の知識を深めることだと確認できる。それに次いで日本語の知識、リラックスした楽しい授業も半数以上の受講生が選択している。一方で比較的興味がないのは単位取得と他の受講生との交流となっている。

以上より本授業の受講生がコース開始時に希望していたのは、リラックスした雰囲気楽しく授業を受け、日本文化や日本語の知識を得ることだとわかった。また他の受講生との交流よりも日本人教師との交流を望んでいると言える。筆者がデザインした授業が受講生にも受け入れられそうだという見通しが持てた。

最後に自由記述の欄を設けたが、コメントを書いた受講生 24 名のうち 6 名が自分の日本語レベルの不足に対する不安を述べていた。

例えば「希望老師不要給太多的作業 因為本身沒有日文的基礎（あまり宿題を出さないでほしい。自分は日本語の基礎ができていないから）」「有些日文不會說，回答可以講中文嗎（日本語で言えないことがある。中国語で答えてもいいですか）」「用日文回答問題需要一點思考時間（質問に日本語で答えるにはちょっと考える時間が必要）」「希望有一些特殊名詞能藉由 powerpoint 或是板書來解讀平假、片假名（特別な言葉は PPT か板書で読み仮名を提示してほしい）」などである。授業内容が理解できないことよりも、授業中に日本語での発言を求められ自分がうまく答えられないことへの不安を述べたものが多かった。

自由記述では他に自分が希望する授業内容を述べたものが見られた。このアンケートはガイダンス後に行われたため、“ガイダンスで紹介した内容が楽しみ” “この内容は少なくしてほしい” “ガイダンスで挙げられていなかったがこれもやってほしい” という3つに分けられる。

受講生が楽しみだと記述した内容は「日本の神話、妖怪、昔話」「妖怪と食べ物の文化」「日本の食べ物」「日本神話、お祭り、それから神社参拝」「普段ネットで見ることがない日本文化」「普段の生活で触れることがない日本文化」「現代文化」「台湾と日本の違うところ」であった<sup>7</sup>。本授業で扱わないものの受講生が希望した内容には「アニメ」「音楽、バンド、サントラ」があった。なおアニメ・漫画とアニメ音楽については本学の応用日本語コースに「漫画日語」という授業があり、そちらで扱っている。また「歴史的部分希望少一點，不過如果是有关背景的话不介意（歴史の部分は少なくしてほしい。でももし関連する背景があれば気にしない）」というコメントが1つあった。

さらに教師との交流を求めるもの（「有時候會希望跟老師多一點交流～（先生ともっとたくさん交流があればと思う時がある）」）、グル

---

<sup>7</sup> 内容についての「 」内は筆者による日本語訳である。

ープでなく個人作業を求めるもの（「盡量能一個人完成的話，希望可用成個人報告&作業（一人でできるなら、できるだけ個人でのレポートや宿題がいい）」）があった<sup>8</sup>。

以上の自由記述の欄を見るとコース開始時の受講生が本授業に期待していること、特に自分が知らない日本文化への学習意欲が高いこと、一方で日本語能力の低さから特に授業で日本語での発言を求められることへの不安が読み取れる。実際授業中に受講生は言いたいことを日本語で言えないことが多く、中国語で発言していた。その場合、日本人教師である筆者は意味がわからないこともあったが、受講生同士は考えをシェアできて満足しているようだった。

## 5. 振り返りシート

ここではコース期間中の毎回の振り返りシートの記述を紹介する<sup>9</sup>。このシートは中間・期末評価の点数の8割を占めるもので、多くの受講生が提出していた。しかし提出しない受講生、またごく簡単にしか記入しない受講生もいた。コース中履修を取りやめる者もあり、受講生は開始時の68名から最終的に55名になったが、シートの提出数は最も多い回で49名分、最も少ない回で38名分、概ね毎回45名前後が提出していた。最も少なかったのは最終回で、一部の受講生の卒業式と授業が重なったことが出席率及びシート提出が減った原因である。

教師は毎回点数をつけて返却すると共に、減点理由と点数アップの方法を各シートに記載した。そして中間成績の時期には高得点を獲った受講生たちのシートを好例として提示した。さらに上でも述べたが教師は各シートに書かれている疑問に答え、内容の勘違いは訂正し、学生の考えに対して教師の考えを書いた。

ここでシートの例を示す。例1はさつまあげを授業で知った学生

---

<sup>8</sup> 他に教師への感謝、「頑張ります」のような決意表明、「よろしくお願ひします」のような挨拶が見られた。

<sup>9</sup> 授業最終日に各学生から論文への引用許可を得ている。



が、おでんとの違いについて疑問を述べており、それに対して教師が説明したものである。この日の授業では鹿児島県のお土産の一つとしてさつまあげを紹介した。皿の上にさつまあげがのった写真を提示しながら、これは魚のすり身で作ったものだと説明した。これ以前に「和食」の一つとしておでんを紹介し、具材のはんぺんについても魚のすり身を使っていると説明していた。そこで学生は例 1 のように質問している。教師のコメントは日本語で書いている。

例 1.

4.【前半・都道府県】疑問に思ったこと、深く考えたことは何ですか。

さつまあげとおでん看起來很像，根據老師的說法應該也都是魚漿所製，那味道上有什麼差別嗎，還是說就只是長相問題呢

(さつまあげとおでんはとても似ていて、先生の言い方だと両方とも魚のすり身からできていて、それなら味はどんな違いがあるのか、それとも外見的な違いだけなのか)

おでんの具材として、さつまあげを入れるんです。おでんは料理の名前、さつまあげは食品の名前です（豆腐、みたいな）。さつまあげは他にも焼いたり煮物にしたり炒めたりして食べます。

このように疑問に答えることで、授業を聞いた学生が勘違いしていた部分を訂正し、より正確な知識を与えることができた。

例 2 は授業と関連することについて学生が自分で詳しく調べて書いたものである。この項目は筆者が本授業で心掛けている①主体的・能動的な学習を実現するために設けたものである。この日の授業では茨城県を紹介し、茨城県が県の魅力を紹介する YouTube 動画を見せた。この中に 5 秒ほど JAXA が映っていたが、例 2 の学生は宇宙に興味があり、授業後に自分で調べたようである。教師もそれに対して関連する漫画の話題を出して交流している。

授業ではお互いによく知らない受講生が大勢集まっている。こういう場で学生が雑談のために教師に話し掛けるのは勇気が要ることだろう。まして教師が日本人で中国語がそれほど堪能ではなく、学生も日本語に自信がなければ尚更である。シートであれば中国語で

書くことができ、他人に見られる心配もないので個人的なことも教師に伝えやすい。シートでは授業中に発言しない学生たちも積極的に自己開示してくれていた。

## 例 2.

8.授業に関連して、自分で調べたことがあったら書いてください。（日本語の単語・文法以外）

由於本身對於太空相關事物很有興趣，便去查得知 JAXA 在真的茨城県那邊！看到相關介紹有博物館可以參觀，很像我之前去 NASA 參觀的樣子。裡面還可以有一些太空人相關的體驗，也有展覽火箭，而且門票也蠻便宜的。希望等疫情趨緩，可以實際去當地參觀！

（宇宙関連に興味があるので、JAXA について調べてみると、なんと本当に茨城県にあることがわかりました！（筆者注：ネットで）博物館があるのを見ましたが、昔私が NASA で見学したのに似ていました。宇宙飛行士関連の体験ができたり、ロケットの展示があって、チケットもとても安いです。コロナが落ち着いたら、実際に見学に行きたいです！）

そうなんですか！私も宇宙に興味があるんですよ～！筑波宇宙センターにも行ってみたいです。

NASA に行ったなんてすごいですね！私は漫画『宇宙兄弟』が大好きです。知っていますか？宇宙好きな人なら絶対好きになると思います～。

なお例 2 についてこの学生は翌週のシートで次のように返信した。

## 例 3.

上週老師提到的「宇宙兄弟」我有看過，我也很喜歡！

（先週先生が言った「宇宙兄弟」私も読んだことがあります。私も好きです！）

また本授業は主に教師の講義のスタイルだったが、時々学生とロールプレイをしたり、学生の意見を聞いたりした。アンケートなどから本授業の受講生はあまり他の受講生に関心がない様子だったが、シートには他の受講生の発言を聞いて思ったことが書かれているものもあった。例 4 はその一つである。

#### 例<sup>10</sup>4.

我同意今天同學上課所分享的，就是每個時期的故事都有它特別的地方，不管是人事時地物或者是描述故事的手法等等，甚至連人名都和現在的名字很不一樣。（今日クラスメイトが授業で言ったことに私も同意で、それぞれの時代の物語には特別な部分があって、いつどこで誰が何をどうしたか、或いはストーリーの描写の仕方など、時には人名さえ現代の名前と異なっています。）

これは受講生が他の受講生の発言内容にも注意を払い、クラスメイトの意見から考えを深めていることを示している。これは筆者が心掛けた3点のうちの②対話的、につながるものである。コロナ禍でハイブリッド授業になってからはグループ討論などは行わなかったが<sup>11</sup>、学生を指名して考えをクラスにシェアすることで類似した効果が得られたと考えている。特に教室だと声が小さい学生も、オンラインでマイクを使用すれば全員が声を聞き取ることができたことは教室における同様の活動よりもよい結果となった。

## 6. 本授業に対する受講生の評価

以下ではまず最終回（第17週）にオンラインでの無記名アンケートを行った結果を報告し、次に最終回のシートには受講生がコースを振り返った感想を書いているものがあつたため、それもまとめて紹介する。最後に学内の授業評価の結果を報告する。

### 6.1 無記名アンケート

最終日の授業で、授業改善を目的としたオンラインでの無記名アンケートを行い、授業の終了15分前に開放し3日間回答を受け付けた。Google Formを使用し、コースサイトにリンクを提示して一人一回だけ回答するように求めた。質問と選択肢は中国語を使用した。

<sup>10</sup> 本稿の例文中の下線は筆者による。

<sup>11</sup> ハイブリッド授業になる前も感染防止の観点から教師主導のグループ討論は行わなかったが、教師が学生の意見を尋ねる前に意見をまとめる時間を与え、その時に周りの友達と話し合ってもよい、としていた。

期間中 26 名から回答が寄せられた。回答者数が少ない原因は上でも述べたように、最終回の授業が卒業式と重なった受講生がおり、出席者がいつもより少なかったことがあげられる。以下でアンケートの結果を見ていく。

### (1) 授業を薦めたいか

まず「你會向朋友或其他學生推薦這個課程嗎？（この授業を友達や他の学生に薦めたいですか）」という質問に対する結果は、「非常推薦（とてもお薦めしたい）」が 19 名、「推薦（お薦めしたい）」が 7 名であった。授業に好意的な受講生が積極的にアンケートに回答していると考えられるが、無記名のアンケートで全員がこの授業を他者にお薦めしたいと答えている。

### (2) 面白かったテーマ

次に「請選擇你在這門課上所學到的所有有趣的主题。（可複選）（この授業で学んだテーマで面白かったものを全て選んでください（複数選択可））」という質問に対する回答は次の表 5 の通りである。なお実際の選択肢には「沒有有趣的主题（面白いテーマはない）」を含めたが回答者は 0 だったので表には含めなかった。

表 5. 面白かったテーマ（複数選択）

現代文化		歴史・物語			
都道府県	23	妖怪	21	日本神話	13
和食・洋食・中華	20	『源氏物語』	17	戦国武将	12
年中行事	16	怪談	16	『枕草子』	9
結婚式	15	昔話	15	『今昔物語集』	8
方言	10	遠野物語 <sup>12</sup>	13	歴史概論	5

<sup>12</sup> 『遠野物語』は「妖怪」のテーマ時に紹介した。

表 5 を見ると、現代文化、歴史・物語共に受講生は面白いと感じていたようである。特に 1 位の都道府県は 26 名中 23 名が面白いと感じていた。アンケートで比較的人気がなかったのは最下位の歴史概論だが、毎回の振り返りシートを見ると元から歴史が好きな受講生や授業で興味を持った受講生も何人もいるようだった。

### (3) 他に希望するテーマ

次に、実際に授業で扱った以外にどんなことを勉強したかったか尋ねたところ、「音楽」「ドラマ」「アニメ」「映画」「服装」「スポーツ」「城」「地形と気候」「マナー・タブー」「日本人同士の話題」「日常生活」「日台の文化の違い」があげられた。これらの項目については今後どのように取り上げるか検討したい。

### (4) 相応しい授業形態

「你覺得「日本文化」內用比較適合什麼樣的上課方式？（可複選）（「日本文化」の内容に合っている授業形態は何だと思えますか？（複数選択可）」という質問に対しては、アンケートに回答した 26 名全員が「先生の講義」だと答えた。2 位以下を多かった順に見ていくと本授業で採用した活動である「動画を見る、音楽を聞く（18 名）」、「クラス全員での話し合い（10 名）」「個人作業（7 名）」が上位に並んだ。本授業では採用しなかった「学生の発表（3 名）」「グループ討論、グループ作業（3 名）」はいずれも少なかった<sup>13</sup>。

### (5) 振り返りシートについて

振り返りシートが役に立ったか尋ねると、「とても役立った」が 10 名、「役立った」が 14 名、「あまり役に立たなかった」が 2 名で、9 割以上の学生が「役立った」「とても役立った」と答えていた。

さらにシートについて、自分の考えに近いものを選択してもらおう

---

<sup>13</sup> 選択肢は本稿に記載したものが全てである。

方法で意見を尋ねた（複数選択可）。26名の回答者のうち5名以上が選択したものを次の表6にまとめた。多くの受講生がシートを肯定的に捉えていたことがわかった。一方で少数が選んだ選択肢には「授業中にシートを書き始めていて先生の話聞いていない」（3名）、「面倒で書きたくない」（2名）、「作業が簡単すぎる。もっと書きたい」（1名）、「項目が少なすぎる」（1名）、「シートを書かずに中間・期末テストがいい」（1名）があった。また「その他」の自由記述を見ると上であげた締め切りについての不満以外に「時々何も思い浮かばなくて書きにくい」「日本語で書くことを強制しなくてありがたいです」があった。

表 6.シートについての考え

いい復習方法	19
先生と個人的に交流できて、うれしい	17
すぐに点数が見られていい	14
毎回シートを出せば中間・期末テストがないのいい	10
締め切りが早すぎる	9
他の受講生が書いたシートが見たい	5

また不満として締め切りが当日中で早いことがあげられていた。締め切りを遅くすると受講生が課題に取り組むのを先送りにし、授業内容を忘れてしまうのではないかと考え授業当日を締め切りとしたが、「その他」に書いてくれたコメントによると本授業後に他の授業もありアルバイトもあるので当日に課題を終えるのはとても大変だと述べている受講生がいた。もう少しゆとりをもった締め切りにすべきだったかもしれず、今後は改善したい。

#### (6) 有効な中間・期末課題

「你認為哪個形式的期中/期末課題對深化學習是最有效的？（どんな中間/期末課題が学習を深めるのに有効だと思いますか）」という

質問に対する答えは表 7 の通りだった。

表 7.有効な中間・期末課題

毎回の宿題（中間/期末課題なし）	17	発表	1
レポート、PPT 提出	5	その他	1
筆記試験、オンラインテスト	2		

「その他」は具体的に記述してもらったが、「我覺得可以要求全班都要繳交期中期末報告，老師覺得報告優異的人可以經過詢問之後在上課時跟同學們看（全員に中間期末レポートを提出させ、先生が優れていると思ったものは本人に尋ねた上で授業中にクラスメイトに見せるという方法もいいと思う）」というものだった。

本授業では毎回提出する振り返りシートと、希望者が提出する PPT 等を用いたプレゼン動画により中間・期末の評価を行った。表 7 を見ると 26 名中 17 名がシート提出を、5 名がレポートや PPT 提出を中間・期末の評価にすることが学習上有効だと思っていると答え、本授業が採用した方法は学生に概ね好評だったと言える。一方で筆記試験、発表、優秀なレポートはクラスで公開してほしいという声は、自信がある受講生による意見であろう。本授業では受講生のプレッシャーを減らすことを心掛けていたが、逆に自信がある受講生は自分の能力を発揮し、称賛される場がほしいと感じたのではないだろうか。この点については 7 節で考察する。

#### (7) 自由記述欄

最後に「請提供任何改進本課的建議（この授業を改善するための提案をしてください）」という質問には自由記述で答えてもらった。8 名が回答したが、提案をしたものは 2 名で他は感謝の表現だった。2 名の提案は「覺得神話故事的部分可以搭配影片會比圖片來的有概念（神話の物語は画像よりも動画を使ったほうが伝わる）」「希望能用全日文上課，畢竟這堂課分類在日語選修，不是通識。（全て日本語

で授業をしてほしい。この授業の分類は日本語コースの選択科目であって一般教養ではない。)』というものであった。前者に関して日本神話のストーリーを紹介するアニメも存在するが、日本語が難しすぎて学習者を混乱させると思い授業では使用しなかった。後者について、こうした声は筆者が担当する多くの授業で寄せられる。本学には日本語学科はなく、多くの日本語関連科目も初級向けである。大学入学前から日本語を学んでいる学生達はハイレベルな日本語授業を求めている。一方で全て日本語で授業を行った場合、ついてこられる学生は半数程度になる。今回は受講生全員がついてこられるよう中国語で授業を行ったが、次回は日本語レベルの高い学生たちの要求に対応し、実験的に全て日本語で授業を行うことを検討したい。その場合受講生は半数程度になるだろうが、学生の満足度は上がる可能性がある。

提案以外に寄せられた一部を紹介すると、「我覺得這堂課很棒，老師介紹了很多東西(省略)也很謝謝老師每一次都很認真看我的 sheet，上大學沒遇過這麼用心的老師，我每個禮拜最期待就是看老師回應的 sheet 了(この授業はすごいと思います。先生はたくさんのことを紹介してくれました。(中略)それに毎回私のシートを真剣に読んでくれてありがとうございます。大学に入ってからこんなに熱心な先生に会ったことがありません。毎週一番楽しみだったのは、先生からのシートの返事でした。)」 「這樣的上課方式挺好的，可以和老師互動(こういう授業スタイルはとて面白い。先生と交流できる)」 「我個人很喜歡用這種作業的方式，因為這樣就不用擔心考試的壓力，上課時能比較輕鬆，也可以學習到東西。(私はこういう課題は大好きです。試験のプレッシャーの心配がないから、授業の時はリラックスして学習できます。)」 これらの回答は筆者が心掛けた3点のうち②対話的、③プレッシャーの軽減、が達成でき、この点において受講生も満足したことを示すものだと言える。



## 6.2 最終回シート

最終回のシートの最後の自由記述欄に感謝のメッセージを書いていた受講生もいた。その中で本授業について具体的に感想を述べているものをまとめると、肯定的に評価されたのは(1)テーマ（都道府県、物語）、(2)教師が作成した PPT、(3)PPT を授業前に予習できること、(4)授業中のリラックスした雰囲気、(5)教師が日本語で物語を読み聞かせるのを聞けること、という 5 点にまとめられた。

一方否定的なものには内容が濃すぎて授業時間内に理解できないという趣旨のものがあつた。本授業では授業の一週間前に PPT を配布し予習の時間を与えており、さらに筆記試験やレポートはなく内容の暗記や完全な理解を求めている。こうした訴えがこの受講生一人だったことと合わせると、他の多くの受講生にはあまり問題視されていないのではないかと考える。

## 6.3 学内のオンライン授業評価

本学では受講生を対象にオンラインでの無記名授業評価「總結性評量」を実施している。「日本文化」の回答数は 39、平均値は 5 点満点で 4.58 であつた。回答者の 61.5%が満足度 90%以上だと回答しており、受講生の多くは本授業を肯定的に評価していることが確認できた。

教師の優れている点と、努力すべき点には表 8 の声が寄せられた。優れた点については回答した 39 名の受講生のうち各項目につき 26-30 名が教師に当てはまるとして評価していた。ここから本授業担当教師は受講生からの評価が高かつたと言えるだろう。

自由記述の欄には 2 名が記入していた。「老師開的這堂課很有趣!! 我很榮幸能選到這堂課（先生のこの授業はとても面白い!! この授業が受講できて光栄です）」「這堂課讓我更了解日本的地理跟文化，收穫很多，真的很謝謝老師！（この授業で日本の地理と文化がもっと理解できました。先生本当にありがとうございます!）」。

表 8. 教師の優れている点と努力すべき点<sup>14</sup>

優れている点	数	努力すべき点	数
学生とのインターアクションが良好	30	声・音が小さい	1
真面目な授業態度	30	話すのが速い	1
教育メディアの活用	30	板書がわかりにくい	1
授業内容が明確	29	情緒の管理不足	0
シラバスに沿った授業	27	PPT が速い	0
学生の抱える問題を喜んで解決する	26	組織的な指導計画不足	0
学生の自主的な思考を促す	26	テーマから離れた話題	0
熱意が伝わる	26	遅刻・早退	0

以上より大学の無記名授業評価からも受講生の多くは本授業を肯定的に評価していることが確認できた。

## 7. 教師の振り返りと今後の改善点

筆者は他の「日文（一）～（四）」「日語会話」等の授業では学生たちの口頭練習の活動時間が多く、授業中主に教師が講義するスタイルの授業はこれが初めてであった。筆者は日本人であり中国語が堪能なわけではない。そのため日本文化について中国語で講義することは難しく、コース開始前に不安もあった。しかし始めてみれば、学習意欲の高い受講生に支えられ、地名や人名等筆者が中国語で読めないものは日本語で発音することで、この問題を乗り越えた。

本授業の目標は 3.2 に書いた 2 点、現代日本文化の理解と伝統文化の知識を得ることであった。学生の振り返りシートから、講義及び教師とのシートのやり取りを通じてこの 2 点の目標が達成できていたことが確認できた。さらに本授業が興味の入り口となり、教室

<sup>14</sup> 筆者が日本語訳したものである。

外でも自主的に学んでほしいという狙いがあったが、上の例2にも示したように学生の中には興味を持ったことを授業前後に自分で調べ、調べたことを振り返りシートに書いて教師に教えてくれる学生もいた。講義、授業PPT、振り返りシートが学習のきっかけとなり、授業外にも自主的な学びが生じていたと言える。

以下では本授業の反省点と改善策をまとめる。

### (1) 授業で扱う内容について

本授業は「日本文化」であるが、ポップカルチャーについては「漫画日語」という授業が他にあるためここでは扱わず、日本人にとっての常識にあたるような、年中行事、各都道府県の有名なもの、大まかな歴史の流れ、有名な歴史上の人物・物語等を紹介した。

本授業が扱ったテーマのうち、学生から比較的評価が低かったのは歴史である。筆者は歴史について、本授業を通して日本と台湾の意識の違いを感じた。日本において歴史はドラマ、漫画、アニメ、ゲームでも頻繁に取り上げられ親しまれている。突然「好きな戦国武将は？」と質問されても多くの人が誰かしらの名前を挙げるができるだろう。しかし筆者の周囲の台湾人に聞くと、歴史といえれば大量の年号・出来事・人名を暗記しなければならないつまらないもので、歴史の授業は苦痛であるという印象が強いようである。コース前もコース中も、学生からは“歴史はつまらないので早く終わらせてほしい”という声があった。

しかし日本の歴史は伝統文化の理解に重要なだけでなく、現代日本人が身に付けている教養であり、ポップカルチャーの大きな一部分ともなっている。筆者は〈縄文時代→弥生時代→...〉といった歴史の大きな流れと、卑弥呼、紫式部、織田信長、坂本龍馬といった有名な歴史上の人物は、日本人にとっては常識であり、日本文化を学ぶ学生にはぜひとも身に付けておいてほしい教養だと考えている。よって今後も歴史については扱っていきたい。ただ、学生たちが歴史に対して強い苦手意識を持っていることもわかったため、今後歴

史を扱う時は学生の興味を引けるよう工夫が必要だと感じた。

また学生たちがアンケートで記載した勉強したかったテーマのうち、「漫画日語」「商務日文」等他の授業で取り上げていないものは、取り上げることを検討したい。特に現代日本人の日常に関することは複数の学生が希望していた。今学期比較的評価が低かったテーマと入れ替える形で取り入れていこうと考えている。

## (2) 振り返りシートについて

シートに関しては成績と直結するため熱心に書く学生が大半であったが、提出しない或いはごく簡単にしか書かない学生もいた。アンケートでシートについて、役立ついい復習方法だと答えた学生が多かったが、2名の学生はあまり役立たない、面倒で書きたくないと答えた。学生が書いたシートの内容が豊富だと教師も長いコメントをつけ、それを読んだ学生は教師と交流する楽しさを知り、その後も熱心にシートを書く。しかし簡単に書いただけのシートには教師は「もっとよく考えてください」「自分で調べたことも書くと点数がアップします」のようなコメントしか書かず、それを受け取った学生はただ面倒だとしか思わなかったのではないだろうか。

この問題を解消するために来年度のコースでは、ガイダンスの時に前年度のよく書けているシートと教師からのコメントを見せ、“このように具体的に書くと教師と交流できる”ことを示そうと考えている。加えて毎回学生が書いたシートも匿名でシェアするという方法もある。実際学生が書いた意見や考えには興味深いものもあった。そのようなものを毎回シェアすることで、シートを書くのが苦手な学生のヒントになる。そして既に深い内容のシートが書ける学生にとっては匿名の公表でも教師からの高評価が与えられていることが実感され、よりモチベーションが上がることが予想される。6.1.の(6)で学生から提案された、全員にレポートを書かせ優秀なレポートを授業中に見せるというやり方があったが、自分が書くものに自信があり、それをクラスメイトに見せたいと思っているような学生は、

このようにシートをシェアされることを喜ぶだろう。

### (3) 使用言語について

6.1 の(7)でも述べたように、本授業は中国語で行ったが次回は実験的に日本語での授業を検討していきたいと考えている。一番の懸念は受講生の人数であり、全て日本語で授業を行うとした場合に開講可能な人数が集まるかという問題がある。この点について筆者は現在「漫画日語」と「日文習作」において実験的に全て日本語での授業を行っているが、これらの受講生はコース開始時 30 名前後おり、人数の問題はクリアしている。よって「日本文化」についても同程度の人数が集まると考えられる。「漫画日語」と「日文習作」の授業の受講生は授業中に教師と日本語でやり取りし、自分の日本語能力を発揮できる場があり、多くの学生が意欲的に授業に参加している。「日本文化」においても日本語での授業を導入すれば、受講生の人数は減るものの満足度は高くなると考えられる。

## 8. おわりに

2023 年現在、新型コロナウイルスは終息したとは言えず、今後もしばらくは感染対策をした上での授業が求められると予想される。本稿はコースの約半分の期間がハイブリッド授業となっている状況で、学生にできるだけ多くの学びを得てもらうべく工夫して行った授業について報告したものである。

筆者が心掛けた 3 点は、①主体的・能動的、②対話的、③プレッシャーの軽減であった。①については 5 節の例 2 で示したように授業と関連した内容のうち自分の好きなことを調べることと、中間・期末に任意で提出したプレゼン動画、授業中の発言回数を成績に含めることによって実施した。②は授業中に学生の感想・意見を発表してもらったことと、毎回のシートに教師がコメントをつけることで図った。③は講義を中国語で行い、シート記入も中国語可としたこと、授業中に発言したくない学生は発言を求められないこと、中

間・期末テストを行わないという方策を実施した。アンケート等の結果を見るとこれら3点について達成できた感触がつかめた。学生からの反応も非常によかったと言えよう。

本授業の試みにより、コロナ禍の「日本文化」授業においてグループワークやペアワークを用いない講義形式であっても、主体的・能動的で対話的な授業が行えたと考えている。現時点で今後の感染状況を予測することは難しいが、どのような状況であっても学生の学びを最大限高められるよう、尽力していきたい。

### 参考文献

- 池田玲子・館岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房
- 岡田佳子(2021)「学生からみたオンライン授業のメリットとデメリット—オンライン環境下のアクティブラーニングに焦点を当てて—」『長崎大学教育開発推進機構紀要』11, pp.25-41
- 佐藤和美(2011)「「日本事情」教育の実践と課題—真理大学応用日語系「日本事情」の実践報告」『台湾日語教育学報』16, pp.155-179
- 鈴木秀明・ヨフコバ四位エレオノラ(2014)「習熟度の異なる学習者に対する授業の可能性と課題—初級日本文化クラスの実践を通して—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』29, pp.93-104
- 高岸雅子(2016)「初級・初中級レベル学習者対象の「日本の文化」授業の実践報告」『同志社大学 日本語・日本文化研究』14, pp.244-269
- 沈美雪(2011)「学習意欲を高める「日本史」授業の試みと実践—中国文化大学日本語文学科の授業実践報告—」『台湾日語教育学報』17, pp.196-222
- 羅素娟(2011)「教養科目としての日本文化のコース・デザインと実践—異文化間能力の養成を目指して—」『台湾日語教育学報』17, pp.173-187